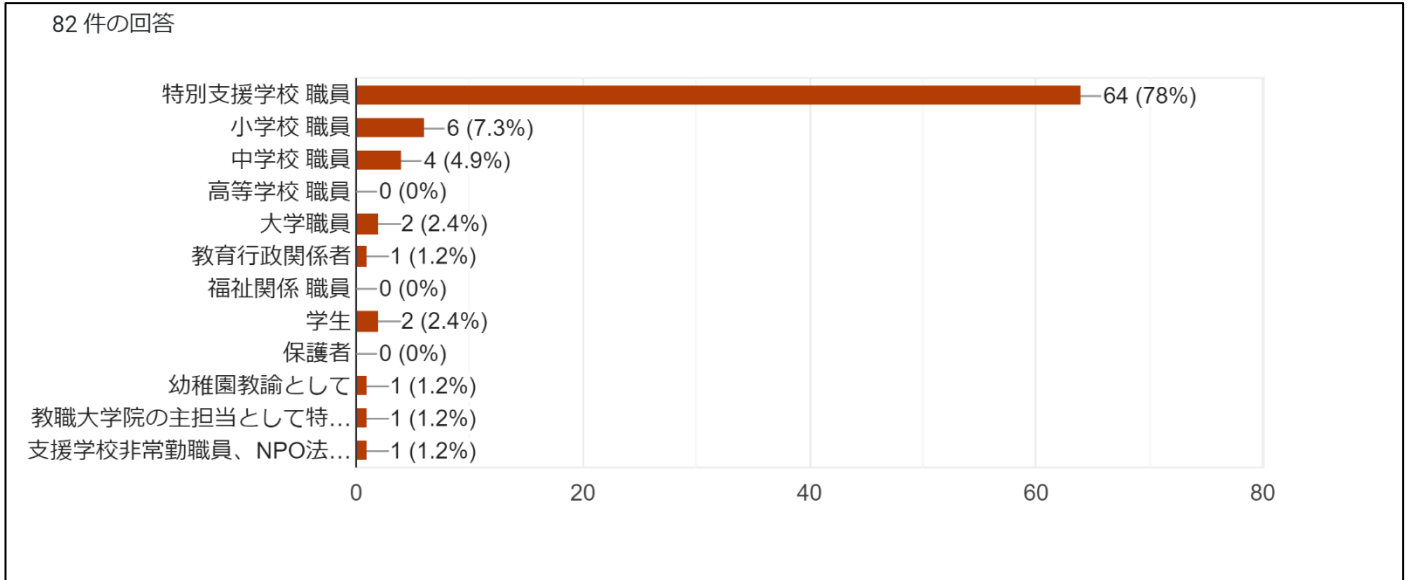


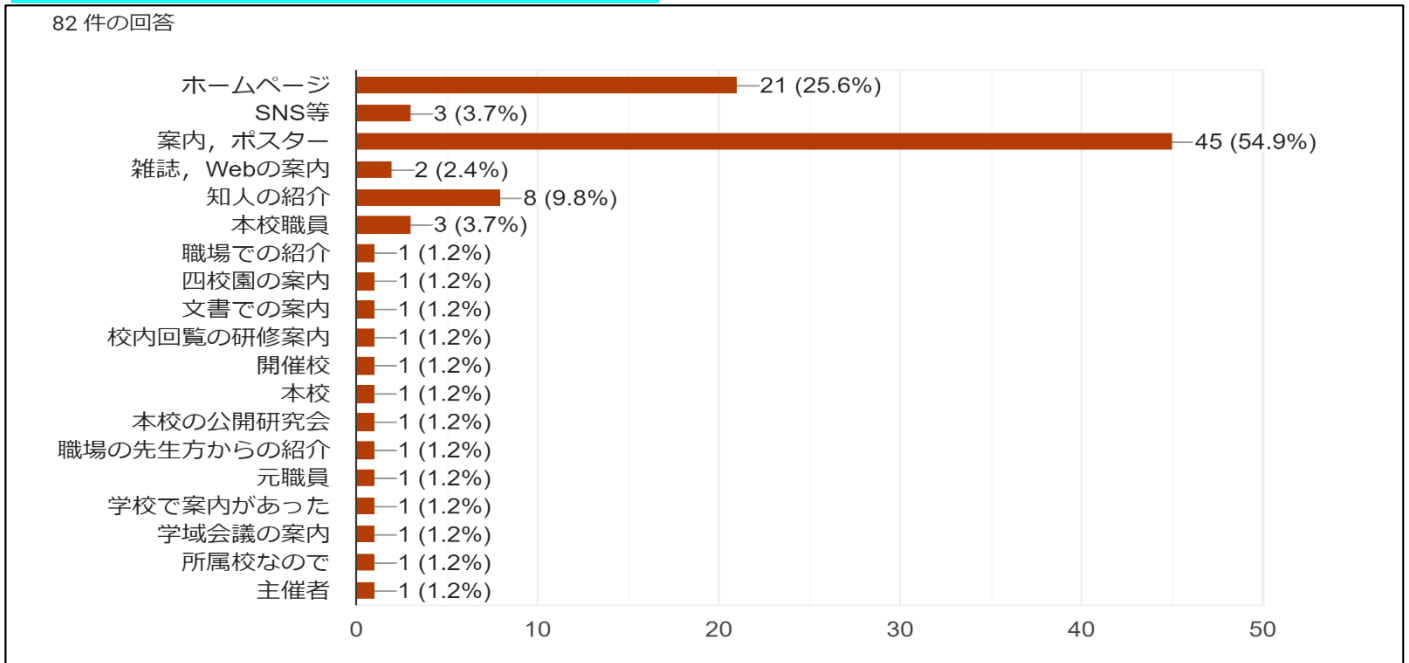
公開研究会アンケート結果一覧

参加者 319 名
アンケート回答数 82
回収率 25.7%

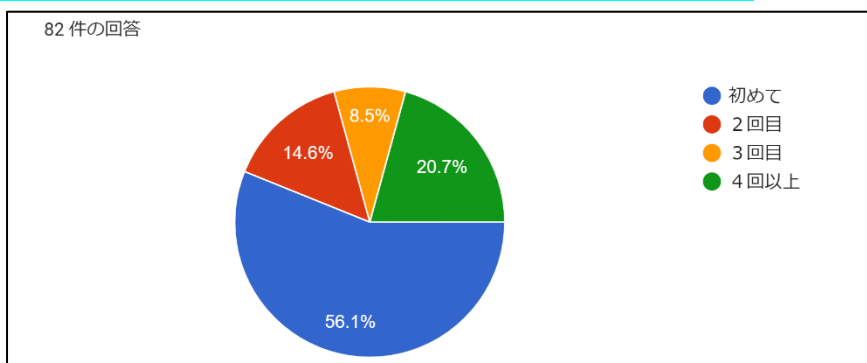
1. 現在、特別支援教育にどのように携わっていますか？



2. 研究会をどのようにしてお知りになりましたか？



3. これまでの公開研究会への参加回数をお知らせください。



4. 学校研究へのご意見・ご質問

- 児童生徒の実態をよく把握し、ICT機器の活用も積極的に行う中で、効果の検証と課題の改善に意欲的に取り組まれているところがすばらしいと感じました。
- 学校研究の概要がとてもわかりやすくまとめられていました。「ベストミックス」はGIGAスクール構想により、一人1台端末が入った本校においても課題の一つです。しかし、教師の抵抗感が大きく、なかなか活用に至らないことが現状です。（アプリや回線等の整備も含めて）研究紀要 p11 の Q11~17 について「効果を実感できない場面があった」ということがありましたが、本校でも、「ICTを活用する」＝「これまでにないスペクタクルな授業をしなくては」と感じている教員がいるように感じます。しかし、ICTはあくまでこれまでの教育活動のアップデートのためのツールと捉えて、生徒にとって少しでも有効な場面があればOKと感じられれば、それでいいのではないかと思います。たくさんの実践（一実践を含め）の紹介、ありがとうございました。
- 現場の疑問や課題から研究につながった経緯がよくわかりました。
- 全体として新しいICTに関わる研究内容に戸惑う職員もいる中で前向きに取り組んでいこうとする姿勢が見えて、中学校現場の実情も同じなので、好ましかったです。また、ICT活用の方向性を「教師が活用→生徒も活用→生徒が活用」とした図式は非常にわかりやすく、中学部の実践動画にもはっきりその流れが見て取れたので、素晴らしい研究だと思いました。自分自身の実践にも生かしたいと思います。一方、「ベストミックス」の語を実践に活用するキーワードとして、4つの視点を挙げていましたが、研究主任が危惧するように、「ベストミックス」が「ICTプラス教師の声かけ」のような低い質に置換できる例もあると思いました。ベストミックスがさまざまな選択肢からその内容・実情において最高のものをその都度組み合わせるということであり、これまでの（最善の）実践の考え方や手法を生かすということではないかな、と思いました。研究先進校である貴校の更なる教育実践の高みを期待しております。ありがとうございました。
- おそらく、ICTを活用するとある程度効果的だということと情報モラル等が今後必要だということは特別支援学校のみならず、共通理解しやすいかなと思いますが、研究から少しそれると思いますが、教師のメリット、デメリットには個人差があるということに関心をもちました。多くの学校で推進役がここに悩み、立ち止まっているケースがあると思います。この辺りを少し整理していただくとありがたいです。また、個に応じた支援が研究テーマですが、個別最適化という言葉もよく聞きます。その中で、指導の個別化と学習の個性化が言われており、この辺りが整理されると中学部で吉井先生が言われていましたが、集団いわゆる協働的な学びにつながっていくのかなと感じました。活用の視点は非常に参考になりました。今までの支援方法のよさも確認できました。
- ICTの活用について、学校研究として取り上げて実践を深められていて素晴らしいと思いました。
- GIGAスクール構想により、現任校でも実践での活用報告が求められています。その中でも、この研究のように学校として研究に位置付けて行うことが有効であると分かりました。
- 大変素晴らしいと感じました。貴稿の児童生徒のその子らしさを伸ばすためのICT活用の実践的研究は、大変参考になりました。ありがとうございます。
- 効果的なアニメーションが分かりやすかったです。
- 日頃からICTを有効に活用したいと思いつつも、具体的な使用方法が思いつかず、これまでの実践と大きく変えなければいけないのかという負担感や子どもの遊び道具になってしまうのではという懸念から使用を控えていました。ICTと従来の支援をベストミックス、活用の方針など参考になることが多かったです。まだ分析の段階の内容も多かったですが、今後の研究がとても気になりました。
- 専門的で学ぶ視点がもてた。
- 便利な教材でいいと思います。その上児童の興味を惹きつけ、分かりやすいと思います。

- 動画配信型公開も2回目ですね。画面のデザインが見やすく、内容も理解しやすかったです。発表もICT活用能力が試されますね。お疲れさまでした。
- 実態に即したわかりやすい研究でした。ありがとうございました。
- アンケートでデメリットの質問があることは、ICT活用の成果を多面的に検討する上で大切な視点だと思いました。
- 学校の研究の方向性がよく分かりました。興味深い内容でした。
- 個に応じた実践や、ICTと従来の支援の融合という視点、とても勉強になりました。
- 研究構造図などにより、研究の概要がよく分かりました。「ベストミックス」「フィッティング」などの言葉は、定義づけが示されているとありがたかったです。
- ICT機器の活用に関して・子どもが自分の思いを伝える方法は色々あり、話すことが難しい子も多くいると思います。その子たちにとって、ICTを上手く活用し、言語表出の手助けをすることは、学習等を進める上で大切になってくると思います。だからこそ、これからもICT教育の研究を進め、「教師側」のICTへの抵抗感を少なくしていくことも、ICT教育を推進する上で重要な要素になってくると思います。
- 今年度の研究の流れが、とてもわかりやすかったです。
- 研究テーマや内容など、学校課題も、今の時代の流れ（学習指導要領やGIGAスクール構想など）もくみ取って、まさに今、求められていることで設定されていて、ただただすごいな～！と感じました。また、分析の視点もアクセシビリティなどの4つの視点と、細かなカテゴリーで細かくされていることで、ICTの効果的な活用をより深めていくことができそうと感じました。
- 実際に先生方に実施した、ICTへの意識アンケートの項目が紹介されており、参考になりました。また、実施前後の比較で、よいものと悪いものの両方が提示されていたことで、メリットとデメリットが明確にわかり、興味深かったです。
- ICT活用にかかる教員の意識の変化が丁寧にとられており、本校のICT活用教育の推進に大変参考になりました。

学びたいテーマでしたので、参考になりました。学びたいと思っている方々も多いと考えられ、関心をひく研究だったと思います。また、特別支援教育でのTCT活用に一石を投じる研究だったのではと思います。視聴された方々の意見を知りたいです。教師アンケート結果の考察や分析については、校内でも意見交換しても良かったと思います。それにより、考え等が変容した先生がいたのではないかと思います。研究推進委員会や共同研究者・指導助言者の先生方からのご助言もふまえて、分かりやすくまとめられていたと思います。貴重な提言がたくさんあったと思います。
- 本校でもICT活用の研究が始まりましたが、機器の操作に戸惑いのある職員も多くうまく活用できていない現状です。一人一実践では簡単な操作でできる方法も実践されており不安を抱えている職員でも抵抗なく挑戦できそうだと思います。将来的に児童生徒が活用していけるよう、まずは教師の活用広めていきたいです。ありがとうございました。
- 研究の内容ではなく、説明の方法についての感想です。スライドに記述した内容を「このように」と表現して説明しておられる部分が多く、また、読む時間が確保されていないこともあって分かりづらい説明だと感じました。オンデマンドで繰り返し視聴できるとはいえ、一度で分かるような説明をしていただけるとありがたいです。
- とても分かりやすくスライドをまとめていただき、研究概要をつかむことができました。授業や会議など、視覚化して分かりやすく伝えることの有効性も感じました。
- 分かりやすかったと思います。

- このような内容をテーマとしたことや一人ひとりの事例を取り上げたことは、とても良かったと思います。ただ ICT の活用については一人ひとりの子どもたちのハンディに関する基本的な状況により、異なる点もいくつかあると思います。一人ひとりを取り上げる視点の中にそういったハンディによる特性、そのための環境の工夫、そこには具体的なアクセシビリティの工夫や活用の相違点等の要素を加えることができればなお良いと感じました。
- ICTが、自立活動の場面で活用されており、参考になりました。

5. 小学部へのご意見・ご質問

- 課題にも挙げられていたが、コミュニケーションツールとして ICT 活用する場合、活用しない場面と同様に、「伝達のコミュニケーション」に注意が向きやすいが、「共有のコミュニケーション」も大切にしながら活用していく必要があると感じた。引き続き、御校の研究実践から学んでいきたい。
- mind map を使った実践ということで、とても興味深く感じました。般化のためにもこの研究での基礎的な部分を大切にしながら、根気強く実践すべきだなあと感じました。
- 対象児の実態を細やかに把握しており、ICTを使った適切な対応が大変効果的だと思いました。児童の様子に改善が見られたこと、ICTの効果の分析がきちんとできていたことがすばらしかったです。
- 大変参考になりました。ありがとうございました。ICTを活用することで、対象児は自分の気持ちを上手く伝えられるようになり、喜びを実感できたのではないかと思います。大学の松下先生のお話にもありましたが、実生活に般化させるのは難しいと改めて考えさせられました。
- 成果と課題がまとめられていて分かりやすかったです
- 小学部では、ICTの活用は、視覚化（可視化）と記憶がキーワードになるのかなと感じました。何点か分からないことがありました。これは自立活動の指導の中で目標を達成するための手段としてICTの活用を考えていかれたのか、あるいは帰りの会等の学習活動の中でICTの活用を考えていかれたのかどちらかなと感じました。意図は、多くの方がICTを活用しようと言われてもどこから手をつけるか悩んでいることが多いです。また、自立活動の視点だと学習の個性化が中心になるのかなと考えたり、教科等の中だと指導の個別化が中心になるのかなと考えたりしました。今回は伝えることがメインなので、ICTでよいかと思ったのですが、2次実践の mindmap はI紙と pad の両方が考えられるかと思うのですが、テレビに映し出され、みんなと共有するにはよいと思いました。思考の整理だけだと紙ですることによって書きながら整理することも小学部段階では必要かなとも感じました。2次実践で感じましたが、自立活動の指導だけでなく、国語としての指導をどうしていくかも合わせて考えていくとよいのかなと感じました。
- ICTを活用する場面と、教師とのかかわりや環境調整などICTを活用しない場面を効果的に組み合わせたベストミックスをとるという助言に、自分の実践もそうでありたいと思い、今後の指導に役立てたいと思いました。
- 大変参考になりました。ご指摘の通り「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」が視覚的にわかれば、知的障害の児童が上手に会話できていることに驚きを感じました。授業や生活での iPad の活用について多くの示唆をいただきました。ありがとうございます。
- 対象児の変容がよく分かりました。対象児の実態も分かりやすく、実態が似ている本校児童の支援にも生かす視点をもって動画視聴できました。
- 説明の後動画で確認することができて深く理解することができました。
- ICTをどのように取り入れるのか？取り入れた際の結果の検証、児童の変容、実態の捉え方など、とても丁寧に研究を進められてきたのが伝わる授業実践でした。発表者の方々は勿論、他の一人一実践の発表も今後の参考にしていきたいと思っています。皆様、お疲れ様でした。

- 初めて知るアプリでした。写真を中心に関連する情報を1枚にまとめられるということで、視覚的にもとても分かりやすいアプリだと思いました。「いつ」「どこで」などに対する答えがどれになるか、日々のやり取りの中で習得する必要と感じました。ぜひ、アプリを活用し、生かしていきたいと思います。
- 小学部段階でICT活用について参考になりました。活用にあたり、歌でルールを説明する点もわかりやすく、知的障害のある子どもには入りやすい内容だったと思います。1点質問ですが、MindMapについては、帰りの会における児童の発表は印刷してファイルに残してあるのでしょうか？
- 先行研究を活用しながら、児童の言葉を引き出す支援をされていて、大変参考になった。
iPad（アプリ）の使用方法を探りながらの実践であることがよく伝わってきました。1日の振り返りをするとき、iPadは写真が活用しやすいことがとても大きな利点に感じます。いつ、どこで、何をしたを分けて情報を整理することで、本人にとって発表の容易になった（活動を理解できた）と思います。発表がルーティン化してしまうことについては、同じ障害特性をもつ子どもたちの実践で直面する課題です。発表していただいた内容以外に、どんな支援があるのか自分でも検討していき、いつか実践で活かしたいと思います。
- 非常に分かりやすく、内容がまとまっていた。実践の中から学ぶことができ、とても貴重な研究だと思った。
- 情報機器を使用できる環境が整ってきていますが、なかなか使いこなせないのが現状なので、今回の事例は大変勉強になりました。児童の表出を引き出すために、ICT機器は非常に有効であると再確認できました。ありがとうございました。
- 理解・思考の道具としての実際の活用方法を見ることができて参考になりました。ICTを使う上で教師が道具の有効的な活用方法を学ぶ必要があると実感しました。
良かったです。
- ICT活用の研究でしたが、効果的な支援のまとめを求める研究スタイルに好感がもてました。公開に参加する人よりも、自分たちにとって有効な研究になったと思います。・まずは、パターンのでも言葉でのやり取りを定着（やり取りのツールが頭の中で円滑とまではいかずとの何となく機能する段階でよいと思います）させつつ、その力を様々な場面で様々な他者と使っていくことが大切だと思います。結構難しいことではありますが、長期的な展望で取り組む価値は大きいと思います。
- アプリを利用し、やり取りがしやすくなったことが分かりました。課題にもあったように、慣れてくるとやり取りの意識が低くなるので、質問の順番をかえるなど、慣れてきたら少しずつ変化をさせていくことが、他の場面でのやり取りへと繋がっていくと感じました。
- お子さんの生き生きと学ぶ姿、素晴らしかったです。パワーポイントの活用の仕方や、先生方のかかわり方等、自分の実践に取り入れさせていただきたいです。ありがとうございました。
- 表出する技能を身に付けながら経験を積み重ねられるよう、児童に合ったアプリの活用と表出の機会の設定が工夫されており、参考にしたいと思いました。言葉の理解を育み、表出言語を増やしていくことも合わせて大切にされていることと思います。国語の学習とどのように関連させながら進められているのか（ICTの活用を含めて）、興味をもちました。タブレットの使用におけるマナーを歌にしておさえながら、使いやすい環境を整えている点も参考にしたいです。小宮山いづみ先生、お疲れ様でした。
- 小学部の担任をしているので、今回視聴させていただいた方法を実際に活用してみたいと思いました。とても良い学びになりました。ありがとうございました。
- 児童は、答えが決まっている質問に対して、早く答えたり反射的に答えることが多いということでしたが、ICTを用いた視覚的な支援をしつつ、児童の障害特性に応じた支援を行うことで、教師からの質問に応答することができるようになっていました。しかし、課題にもあったように、やり取りをパターン化してしまうと、また、反射的に答えるようになってしまうので、質問パターンを変える必要があると思

ました。感じたことや自分の思いを表出するためには、児童にとって思いを伝えやすい方法が何かを理解することが大切だと考えます。口頭で伝える、文章にまとめる、図表やイラストにまとめるなど、人によって得意な伝え方は様々であり、それを踏まえた上で、児童が伝えやすい方法でコミュニケーションできるようになると学習を進める上でも生活場面でもお互いに過ごしやすくなると思います。また、ロールプレイングで自分の気持ちを言葉にして伝える練習をしたり、自分の考えをまとめるのに時間がかかるという場合には考えをまとめるための時間を確保することも手立ての一つであると考えます。

- i mind map kids を活用し、話や出来事の内容を整理することができていて、分かりやすいなと感じました。また、i Pad の使い方を歌に合わせて児童と確認している実践がとても印象的でした。難しく感じてしまう情報モラルの学習も、iPad を活用する上では、同時に行うことの必要性と大切さを改めて感じました。
- アクセシビリティに関する支援が多くなるのは、小学部ならではだと感じました。また、動くものや即座に反応するものという点では、興味関心や、視点の集中は期待できると思いました。
- マインドマップの手法は、本校でもぜひ取り入れてみたいと思いました。
- 共同研究の先生、指導助言者の先生の動画は、参考になりました。今年度、それらも公開研究会の参加者にみて頂けてよかったです。
- 実態の近い児童が本校にも在籍しており、参考になる実践でした。
- 振り返りをうまく活用して子どもたちの考えたり話したりする力を伸ばされているのが、とても勉強になりました。
- マインドマップアプリで情報を視覚化することで、対象のお子さんは何を聞かれているのかが分かりやすく、コミュニケーションの難しさを補うことができていると感じ、大変参考になりました。私自身が今年度担任しているクラスにも、エコラリアが多く会話が成立しにくい生徒がいます。今回の実践を参考にさせていただき、子どもたちの伝わって嬉しいという気持ちや、人とのやりとりを楽しみと思う気持ちを大切にしていきたいと思います。
- 一次から二次への取り組みの過程の中で、支援の基本的な視点を良い方向に変えていったところは良かったと思います。松下先生もふれていましたが、現時点で音声言語を主体とした5W1H的な要素からの質問的な投げかけや視点は子どもの実態やハンディの特性等から合っていないと思われます。また、このようなハンディの子どもさんが呈している音声言語での表出については、発せられている言葉とその本質的な意味、意図、コミュニケーションとしての役割については、深い洞察が求められます。誤解を恐れずに言えば、現時点では音声言語による要素をできる限り少なくして、視覚的要素による相互コミュニケーション、相互表現、相互読み取りに重点を置くことが大切だと思います。20年前にテレビドラマにも取り上げられ、マンガの題材ともなった「光とともに」のモデルとなった、ダダくんのお母さんは、今、「おめめどう」という支援の会社を起業し、支援に必要な基本的な考え方や、必要な支援具の普及に長く取り組んでいます。そちらで発信されているそのような内容は、とても参考となるものです。長く支援に関わってきている者としても、学校と卒業後の両方の場での支援に関わっている者(1番年齢の上の自閉症の方は、53歳です)しても必要な情報だと思います。もう一つ、エコラリアと言われる現象は、他者(他所)の音声発信にその子(人)なりに一生懸命に、同じものを返そうとしている様子とも捉えられ、認知のハンディという視点からも、自身と他者、一人称と二人称、三人称との立場の違いと表現の違いとの関係性への気づき、理解が難しいというハンディの特性によるものだというようにも考えられます。iPad等による、気づきやすい、わかりやすい視覚情報を通して、「誰が、何を、どうする」といった、現象を音声以外の(音声は後からのものとして)、可能であれば文字も含めて、視覚的要素を工夫したいろいろな方法でイメージしていく、表現していく、組み合わせしていく、読み解く(見て解く)ことの学習の積み

重ねが大切だと思っています。53歳の彼の今の様子から学ぶこと、得ることも多いです。ありがとうございました。

6. 中学部へのご意見・ご質問

- コミュニケーションのツールとしてのICT機器の活用が、対象生徒の実態によく合っていて、本人の興味関心の高さとも関連しながら、大きな成果が得られたことがよくわかりました。友達からも評価されて、うれしそうな表情を見せてくれたのが印象的でした。
- ICTがまさにその生徒の「生活上の困難さ」を改善するための手立てになっていると感じました。なにより、自分の気持ちが相手に伝わることに喜びを感じている生徒さんの表情に、今回の研究の価値を感じました。本校でも今後様々なニーズの生徒に出会うことが予想されます。（来年度はディスレクシアの生徒が入学予定です。）この研究の視点をもとに、ICTの有効活用を目指したいと思います。
- ICTの意味は「共有」がキーワードである、と中学部の動画を見て非常に勉強になりました。11月12日の昼休みについてのAさん、Cさんのやりとりの動画は、伝わらないもどかしさを持ち、大人とのやりとりしかしてこなかったAさんの世界が変わったことが、はっきり伝わってきました。Aさんの思いをCさんが共有し、「いいよ。」と受け止められたAさんの安堵もとても伝わりました。AさんがICT機器やジェスチャーを自ら選択し、駆使して成立した、感情や情報の共有によるコミュニケーション…奇跡的だと思いましたが、「その他の活動における対象生徒の様子」画面にAさんの成長の記録が出ており、偶然ではないことがわかりました。それまでの支援の積み重ねも想像でき、ここまでに至る、本当に感動的な実践であると思いました。また、最終的な考察まで実に多くの情報がまとめ上げられており、中学部として研究をまとめるまでの苦心もどれほどかと思いました。解説動画で吉井先生がおっしゃった「仲間と教師の存在と相互の協力」ですが、上記昼休みに関する動画だけでなく、ICTを用いた発表に聞き入ったり予想を言ったりする仲間が増えており、本人の伝わる喜びがさらに高まっていたことからわかりました。人はどのようにして他者と思いを共有できるのかは、まさに柳澤先生がおっしゃった「どの写真を誰に伝えるのか」を、実は、最初から真剣に続けてきたことの結果なのだと学びました。・全体研の解説で、永田先生は「入力→処理→出力」という表現の過程的な提示を行っています。今回の発表事例についても、これに応じた支援が行われているわけで、その意味で、国語での日々の構文学習のみならず、集材支援（生徒によるカメラ撮影及び取り込み）、集材からの絞り込み、構文までの原稿作成支援などが発表までのもっとも重要な支援だと思いました。ただ、これほど良い支援をしながら、それらが目標行動を成立させる支援として、「効果的な活用方法」のフォーマットには出てきません。学校研究概要にあった「教師が（ICTを使う）→生徒も→生徒が」の中の、本実践でのAさんがICTを使う支援は、授業（今回は発表）までに終わっているのがもっとも良い支援になるのではないかと、だから、授業前支援の分析も研究フォーマットにあるといいと思いました。「ベストミックス」は奥が深いと感じました。・長々と失礼しました。ICTの研究は始まったばかり。初年度の今年、こんなに素晴らしい実践動画が見られるとは思いませんでした。今後のご活躍をお祈りいたします。
- 第1次実践と第2次実践の実際の動画があったので、生徒の様子や教師の支援の様子がよくわかりました。

詳細な実態は分かりませんが、対象生徒さんにとってICTはなくてはならないものだとすごく感じました。自分の頭を整理それを皆に可視化して伝えているという印象をもちました。また、発表の中でVOC A等のお話もありましたが、改めて、今までの支援機器の活用も大切にしていく必要があると感じました。少し乱暴ですが、中学部段階になると身近な生活から社会生活が中心になっていくと思います。その辺りの実践がでてくると面白いなと思いましたし、課題もたくさんでてくるとしています。吉井先生も言われていましたが、集団の中で活用（実際には使用しているのですが）について、本人だけではなく、周

辺の生徒が画面を共有することで説明していることが分かった等周囲との関係で活用の効果が提案できると本人も必要ですし、周囲も必要だと感じこれが、協働的な学びにつながるのではないかと感じました。

- とてもわかり易くまとめられており、大変参考になりました。定形での繰り返しの支援があったからこそ児童が適切な受け答えを身につけることができたのだと感じましたし、繰り返しの支援だからこそ予測ができてしまいやり取りへの意識が低下するというのもとても共感しました。さらにランチを増やすことや、順番を変えるなどの方法を今後取り入れることでどのような成果があったのかさらに知りたいと思いましたし、私自身も日々の支援に当たる際児童への課題の提示の仕方など参考にさせていただきたいと思っています。ありがとうございました。
- コミュニケーションに課題のある児童は特別支援には多く在籍していると思うので、コミュニケーションの課題をICTを通して円滑にしていこうと目指す取り組みは他の特別支援に携わる方々にとっても参考になる発表だと思います。お疲れ様でした。
- 言語でのコミュニケーションに課題がある児童生徒は多いです。この実践のように、やったことをまとめる、ということがICTを使えばできる、ということが児童生徒に実感できること、そして、それを活用すれば伝えられる、伝わるということが実感できることは大事なことだと感じました。「何をした」を伝えるのは終わりの会の時だけ、というのではなく、最初はその活動のみだったとしても、学校生活全体で使い方を統一していくと、卒業後にどんな場面でも使えるツールになるのではないかと感じさせてもらいました。指導の方向性とか統一とかは大切だと感じました。内容の精選で伝えるということも大切なので、相手にわかる伝え方を形式化することも必要かなと感じました。
- 対象生徒自身がICT機器が役立つものとして理解しており、必要感を感じていることがわかる実践でした。伝わってうれしいという思いがこちらに感じられる実践でした。当該生徒のコミュニケーションの幅が広がり、主体的に動くことができおり、自分の学校でも実践したいと思います。
- DropTalkの有効な使用方法と、実際の活用場面を見ることができ、大変参考になった。
- 伝えたい意欲はあるのに、うまく伝えられない子どもの支援について、多くのことを考えるきっかけになりました。対象生徒のような子どもは、教師が考えている以上に伝えたいことを自分の中にもっていることがよく分かりました。一つ一つの支援の精度（使いやすさ、伝わりやすさ）を上げるだけでなく、方法の多様化（TPOに応じて使い分ける）も大切と感じました。また、対象学級には、良い聞き手になる生徒がいたようですが、特別支援学校の中には、良い聞き手がない場合もあると思います。集団指導では、偏りすぎないように（待たせすぎないように）配慮しながら、伝えたい気持ちを支え、伸ばしていくことの大切さとその大変さを改めて感じました。
- 生徒同士がコミュニケーションをとろうとする姿が印象的で、双方向からの働きかけが大切であると改めて学べた。ICTを用いることで、生徒が生きやすくなるのは、すごい重要な道具であると感じた。
- droptalkは以前使用したことがありますが、色々な使い方ができると改めて勉強になりました。今後も児童生徒の実態に合わせた使い方で使用していきたいと思っています。ありがとうございました。
- ご実践が体系的にまとめられていて、大変素晴らしいと思いました。今後の参考にさせていただきます。
- ICTもとても充実し、一種レベルの高い活動が行われている感じがしました。
- ICTを活用し、言葉の理解を促しつつコミュニケーションを充実させていく実践は、よくある実践だと思います。ただし、それを丁寧に記録し、そこから明らかにした情報を精査し、PDCAサイクルでより良いものへと発展させていくのは、ものすごい労力がいられます。外から附属の実践を見て、改めて尊敬します。中学部の動画を視聴した先生方に、様々なICT活用のアイデアが生まれたと思います。・今回は発信する生徒に着目するウエイトが大きい実践でした。発信を受け止める生徒は比較的知的レベルが高い生徒だと思います。積極的に友達の発信を受け止め、わかりにくい情報を何とか結び付けて理解しようとしていました。そこには「思考・判断・表現」が高速で回っていたと思います。動画だけの情報では、一人

のよくわかる生徒が受け止めていたように見えますが、実はクラスの他の生徒たちもそれぞれのレベルで受け止め、何とか理解しようと努力していたはずです。こうした経験は、自分が発信する際に有効に働くと思います。今回の着目点は ICT を用いた言葉とコミュニケーション力の向上でしたが、もっと大きな視点で見えていくと、他者を受け止めつつ自分も表現する経験を膨らませることで、豊かな仲間作りにつながっていると感じました。

- 教師の iPad をミラーリングし、情報を他の生徒に共有させていた点、素晴らしい使い方だと思いました。個への提示と集団への提示を分けることで、それぞれにあった視覚支援ができると学びました。ありがとうございました。
- 話し手と聞き手の、双方の共同行為ということが、自分の実践も振り返り、ほんとその通りだなあと感じました。
- アプリを活用して、自分の思いをクラスメイトに伝えることが少しずつでき、ICT がコミュニケーションの架け橋となることを実感しました。生徒がなんとか伝えようと、試行錯誤している姿は、主体的で対話的で深い学びにも繋がっていると感じました。
- 事例時の動画があることで、研究内容や事例児がイメージしやすく、有効だと思いました。指導助言者の動画を先に見ることができれば、研究のまとめの中の課題に、指導助言者からの意見を踏まえた考察を追加できたかもしれないと思いました。
- 帰りの会前に 1 日を振り返り発表内容の選択と整理がうまく支援されていると感じました。発表者の言語理解、支援にばかり気を取られてしまいますが、その発表を受け取る側の実態も考慮して進めていかなければ双方のやりとりがうまくいかないのだと気付かされました。
- 伝えたい気持ちはあるが、表出に困難さがあり周りに伝えきれない生徒が、ICT 機器を使用することで、より自分の気持ちなどを正確に伝えられるようになっていました。本校でも同じような生徒はたくさんおり、参考にさせていただきます。使用する際に伝える側だけでなく、受け手の実態も考慮していく重要性も感じました。とても勉強になりました。ありがとうございました。
- 対象生徒さんの表情が実践の成果を現していました。参考になりました。
- 友達や先生に伝えたいことが伝わった時の、対象のお子さんの嬉しそうな様子がとても印象に残りました。言葉による表出が難しい子どもたちにとっても、ICT によって伝えたい思いを表現することができることは ICT 活用の良さだと改めて感じました。大変参考になりました。今回の実践を参考にさせていただき、子どもたちの自己表出、自己選択、自己決定を尊重していきたいと思います。
- ダウン症と思われる彼のハンディの特性や現在の様子から、内面的なコミュニケーションの状況や気持ち、意欲と表出のしにくさ、伝わりにくさのギャップ等に対して「Drop Talk」アプリの特性を活用した良い支援であり、参考になりました。動画で出てきていた、「えにつき」についても、象徴的な写真やイラスト等を使用する点、単語選択、その並べ、トータル的な読み上げにより、一定のまとまった話し言葉(文)の表現としての良さもあるので、併せた活用の試みもあって良かったと思いました。文章的な要素という点では、Drop Talk アプリ内の「文章づくり」「スケジュール」の活用も可能だったように感じました。また、細かなこととなりますが、全体での場での iPad 活用という点では、彼がモニターを直接タップして、皆が共に一つの要素を通して、表出、情報を共有していくという環境設定でも良いとも思いました。クラスに自閉傾向の生徒さんや全体的な情報提供、音声言語での状況把握に苦手なところがある生徒さんがいる場面では、画面共有により、音声はモニターから出し、事例の彼のモニタータップ動きに合わせて、後者の生徒さんのところで教師が iPad をタップする、後者の生徒は、その iPad の画面を通して、視覚情報を中心として場の共有化を図るという試行、その状況確認を考えて見たいようにも感じました。※複雑化しますが、、、休み時間の友だちへのアプローチの一对一での場面での iPad、コミュニケーションアプリの活用の場面が気持ちや意欲も伴った、また、相手にとってもわかりやすい実際的な場面

としてもとても良いと思えました。低学年での導入についての是非的な話題もあったと思いますが、このようなコミュニケーション支援の要素を中心とした、相互的コミュニケーションの成立に視点を当てた利用が大切ではないかと考えます。※ハンディの状況は違いますが、内面と表出のギャップに対する支援という点では、SMA の子どもさんたちは、生後早い段階から、かつての「レッツチャット」、現在は「ファインチャット」に代表されるようなコミュニケーション支援機器の活用をはじめ、そのことが大切な要素となっていると思えます。ありがとうございました。

7. 高等部へのご意見・ご質問

- 生徒の抱える困難さは各生徒それぞれなので、個別対応が基本ですが、それに抵抗感を持つ生徒もいたということで、その場合、臨機応変にクラスみんなで取り組むように配慮したところが、とても良かったです。
- 対象生徒が、タブレットのリマインダー機能を使い、これまでの生活習慣を改める中で、お着替えを忘れずにしたり、係活動がんばったりしている姿を見て、ICT機器の活用による効果を実感することができました。
- 発達段階の違う2つの事例からそれぞれに有効な手立てを見いだすことができていると思えます。指導助言の小林先生もおっしゃっていましたが、高等部になると、タブレットからスマホへ等、卒業後の生活も考えた段階的指導が必要になると思いました。ICTの有効利用とともに、どのような過程を踏んでICTによる支援から脱却してくかも気になりました。研究のテーマからは外れますが、動画の最後、感想発表の中でもAさんにICTや5段階表を使って支援しており、気持ちを引き出すためにきめ細かな支援がされているなど感じました。
- 知的障害の特性に配慮した実践だと感じました。もう一つは、いわゆるスケジュールに関わる実践かと感じました。おそらく高等部段階になるとICTの一つの利便性である携帯できるということがあるかと思えます。学校にとどまらない、実習等での活用があってもよいかと普段から思っています(クリアすべき課題は多くあるのですが)。やはり、仕事や家庭で使えるようにがこの段階なので、スライドにもありましたが、いわゆるスマホの活用があってもよいのではないかと思っています。個に応じた支援ではありますが、高等部段階の情報モラルについて現状を伝えていただくと、中学部・小学部でやるべきことが見えてくるのかなと感じました。
- 本校の児童だけでなく、ICTをどのように、どの場面で使うかなどの参考になりました。
- ほとんどの人が使ったことのある、リマインダー機能を使っての取り組み。少しの支援で生徒のQOLを向上させられるので、ICT初心者にもハードルを低くしてくれたのではと感じました。お疲れ様でした。
- iPadのリマインダー機能を活用されていましたが、タイマーが良いのではないかと感じました。また、Bさんの情動的混乱の場面の動画では、指導者のカードの提示の仕方にも問題があったかなと感じました。カードを提示しながら同時に言語も使用しておられました。視覚支援の方法を適切にされても解決できたかなと感じました。高等部の場合、卒業後の生活の中で簡単に無理なく継続して活用できるという実践的な方法であることが第一かなということであらためて感じました。支援方法や支援策につなげるためにどのような方法がいいのかはICTにこだわらず模索していけたらいいなあと感じました。
- タイマーで知らせるという方法は普段から誰もが用いる方法であるので、実態に応じて生活しやすいように使用していくのがいいと思った。
- 生徒自身の声(感想などの発話)って、やっぱり説得力ありますね。
- 生徒の興味を惹きつけます。
- どの学部も自立活動とICT活用をリンクさせていますが、高等部の実践は、生徒自身が自分の判断で使っていく分野に着目していたのが印象的でした。こんな使い方があるんだと、とても参考にさせていただき

ました。・ICTはそれを使う教師の知識量によって、使いこなせない場合がありますし、そもそも支援に利用するイメージさえ出てこないと思います。学習活動の目標を達成するためにリマインダー機能を使うアイデアは、他の学校でもやっているのかもしれませんが、自立活動とのリンクに加え、生徒の外界需要の特性に配慮するなど、文字通り個別最適な支援を目指していることがとても参考になりました。

- ICTを使いこなしてくると、情報モラルや汎化が課題となってきますね。現在は、ICTがあることが普通であり、障害のある人も同じ社会の中で暮らしています。普通と簡単に言いますが、普通とはどんな状態なのでしょうか？定義付けが難しいですね。
- 最後の場面で教師の生徒への「タブレットと使って頑張ったことはありますか」の質問に対し、生徒が「着替えが早くできるようになったことです」と回答している場面を見て、学びの成果を生徒自身を感じていることは素晴らしいと思いました。
- 個々の自立活動の目標の達成に向け、一つの手段としてICTの活用を図られていることが、実践例からよく分かりました。卒業後の姿を想定して活用を検討したり実際に進められたりされていることと思います。今後、現場実習先で、生徒本人がICTを活用しながら実習に取り組む事例などがありましたら、ぜひ発信していただきたいと思いました。
- ICTの活用による生徒の変容が分かり、大変参考になりました。機会がありましたら、自立活動だけでなく、各教科における取り組みについても拝見したいです。
- リマインダー機能を使いこなした実践をみて、ICTの活用の大切さを改めて実感しました。1つ質問させていただきたいのですが、iPadを生徒が常に使えるようにどんな整備や約束事を決めて、実施に至ったのか、もしよかったら教えていただきたいです。（私が勤務している学校では、今はiPadが必要な授業時のみ、教員から生徒に渡して使い、授業が終わったら回収しています。ゆくゆくは、生徒自身が管理できるように整備をしたいものの、情報モラルなどの兼ね合いを難しく感じています。）
- アクセシビリティの支援が少なくなるのが、高等部ならではだと思いました。卒業後の活動場所において、ICTがどのように用いられているか、情報共有をすることで、より現場に近い作業学習の目標が設定できるのではと感じました。
- ありがとうございました。本校高等部はまだ1人1台端末ではないので、現状ではなかなか個々の課題に対してiPadを活用することが難しいのですが、今後活用を考えていく際の有効性を感じました。生徒が自分で機器を使いこなしていくことが期待できる分、情報リテラシーなどの指導も合わせて考えていかなければならないと感じています。
- iPadのアプリはたくさんありますが、生徒のニーズや環境などに適したものを見つけることは、なかなか難しいと感じることがあります。ですが、適したものが見つけれれば、それを活用して、生徒の自主的な行動を増えたり、できることが増えたりと、驚くような変化が見られることがあります。私たち教員は、生徒に本当に適したものを探ることが大切だと感じています。
- 子どもたちにとって、自分の力でできるというのは喜びであり、社会に出てからも子どもたち自身を支える大切な力になると改めて感じました。ICTを活用することで子どもたちの主体的な活動を促すことができることは、ICT活用の良さの一つであると感じます。大変参考になりました。私自身が今年度担任しているクラスにも、ADHDの傾向が強く、注意が散漫になってしまいやることを忘れてしまう生徒がいます。今回の実践を参考にさせていただき、ICTの活用を通して生徒が自分から行動できるような支援を考えていきたいと思っています。
- 23:50となってしまい。一旦、ここまでのものを送信します。明日も可能でしたら、高等部他のものへの記述を行わせていただこうと思います。すみません。
- 実態に応じた方法で活用することで、効果が現れ、本人の自信となる様子が見られ、印象的でした。

8. 視聴方法へのご意見・ご質問

- 各動画が整理して掲載されているため、視聴しやすかった。
- たくさんの動画をアップしてくださっており、とても分かりやすくよかったです。
- 聞き逃した場所や、メモが追いつかないところなどは戻すことができ、動画のメリットを感じた。このような機会を作ってください、ありがとうございました。
- コロナ禍でありましたが、逆にテーマを絞った視聴ができ、時間的な制約もなかったので、個人的にはよい方法だったと思っています。
- 構成や編集に大変苦労があったかと思います。貴重な研究成果をどこにいても見ることができ、非常にありがたいです。また、研究紀要も同時に掲載されていたので、動画と合わせることで理解が深まりました。たくさんの資料提示、ありがとうございます。指導助言者や共同研究者からの動画もあり、とてもボリュームがありました。ポスター発表など、すべての動画を視聴するには時間が足りず、先にアンケートを記入させていただきました。大変申し訳ありません。
- とても良い方法だと思いました。本校の公開研究会は ZOOM で行いましたが、非常に大変でした。リアルなやり取りはできませんが、You Tube であれば、都合の良い時間に見られるので、たくさんの方に実践を見ていただけたと思います。
- 自分の都合の良いときに自宅で視聴できるし、気になるところを繰り返し確認できるのがいいと思います。

たくさんの情報を提供していただき、ありがとうございました。それぞれの時間が短く集中できるように思いましたし、動画も問題なく視聴できました。
- 感染症対策ということでも安心ですが、自分の都合の良い時間に視聴できること、聞き逃した部分やもう一度聞きたいと思う箇所をリピートできること等、今の自分にはとても良かったです。充実した内容なので、有料配信だったとしても参加したと思います。ありがとうございました。
- 繰り返し理解できていない部分を視聴することができて助かりました。
- とても良いです。遠隔の地 九州・大分県から、そして、時間も授業の空き時間に視聴できとても良かったです。ありがとうございました。
- 休日など時間に余裕があるときに動画を視聴することができてよかったです。
- コロナ禍でのこのような取り組み(YouTube による配信) だと思いますが、職場にしながら、県外の教職員の方々の貴重な研究成果を気軽に視聴できるのはとても有難く思います。とてもスムーズかつ快適に視聴できました。ありがとうございました。
- オンラインでの配信はこれまでは現地に行かなければ参加できず、他校の実践を知る機会がなかなか難しかった状況を変えてくれました。いろいろと大変だとは思いますが、とても良い方法で学ばせていただけるので、とてもありがたいです。
- 研究で取り組まれている内容に興味があったが、対面公開であれば話を聞くことができないので、今回の方法でやってもらえると遠方でも視聴できるので、助かりました。
- 遠方なので、このような方法で視聴できてよかったです。
- 短時間で勉強になりました。ありがとうございました。
- コロナ禍ということで適した方法であると思うし、動画だともう一度見たいところに戻ることもでき、再確認できる点がとてもいいと思った。
- 複数の学部的事例を見ることができて良かった。
- ご多忙の中、たくさんのコンテンツをご準備いただき、ありがとうございました。
- 自由にみることができ助かりました。改めて YouTube の便利さを実感しました。

- 盛りだくさんな内容で、たくさん学ばせていただきました。どんなアプリがあるのかや、そのアプリの使いやすさなど教師自身がやってみないとわかりません。近隣の小中学校の実践を聞いたり、このような配信を見たりして、児童生徒にとってより良い ICT 活用をしていきたいと思います。ありがとうございました。
- 色々な学部の研究を、見ることができてとても良かったです。また、繰り返し再生したり、戻って確認したり、拡大したりもできたので、ありがたかったです。
- オンデマンドで配信していただけたこと、感謝申し上げます。自分の時間に合わせて、貴校の取組や研究について学ぶことができました。
- 時間と場所を選ばず研修、研究の場を得られました。特にテーマが ICT に係るものでもあり、手元の端末ですぐに欲しい情報にアクセスできる利点も感じました。
- 京都にいながら、他府県の研究発表を知ることができ、嬉しかった。また、配信期間があることで、スケジュール調整がしやすく、学びやすかったです。ありがとうございました。
- 気軽に参加できましたし、聞き逃した所はもう一度再生できたのでとても良かったです。ありがとうございました。
- 個人情報保護の点から、動画視聴の際にパスワードを設けたのが良いと思いました。
- このような形での公開研究会に初めて参加いたしました。適時に視聴できとてもよいと思いました。ありがとうございます。
- コロナが収束したとしても、遠方で山梨に赴くことが難しいので、オンラインでも公開研究を行って下さると、とてもありがたいです。また、1つ1つの動画も短く、分かりやすくまとまっており、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- オンラインでしたが、内容が盛りだくさんでとても参考になりました。ありがとうございました。
- 申し込み後、公開期間終了が近づいていることなどメールで案内をいただけたのがありがたかったです。
- 操作が簡便で視聴しやすかったこと、期間中なんども見返すことができ、理解が深まりました。
- 時間と場所を問わず、視聴できるので、ありがたいです。何度もみることができたり、静止画でみることができたりするのも、便利だと思います。他学部の研究の様子（児童生徒の様子）もみることができるともメリットもあると思いました。
- オンラインでの配信ということもあり、地方にいても研究会に参加できたこと、大変ありがたかったです。
- 例年の公開では、どこか一つの学部を見ることしかできませんが、今回の視聴方法は、全学部の実践を見ることができるので、多くのことを学びました。実際の授業を見ることや、質疑応答による対面も学びは多いですが、今回の方法にも良さを感じました。
- 広く実践や研究を発信していただけることは大変ありがたいです。コロナ禍にかかわらず、特別支援教育に携わる方々が多く貴校の実践・研究により専門性を高めていけるよう、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- 日々の授業や会議などの日程も変則続きなので、生配信ではなく期間内に自分のタイミングで視聴できたことは、参加しやすくてとてもありがたかったです。配信期間も1週間以上あり、よかったです。
- なかなか他の学校での取り組みを知る機会が少ないですので、このような形でまた配信して下さるとありがたいです。
- 好きなときに視聴できるこの形がよい。
- 一定の期間の公開にいただいたので、拝見しやすかったです。ありがとうございます。
- 学校でなくても観ることができ、とても良かったです。ありがとうございました。

○操作が分かりやすく、困ることなく視聴できました。一つ一つが短く、分かりやすくまとめられていて見やすかったです。

9. 筑波大学附属大塚特別支援学校 飯島先生へのご意見・ご質問

- ・本校でも、休校期間中に動画配信をしたり教材を郵送したりしたので、興味をもって動画視聴しました。題材として取り上げた「カレンダーマーチ」は、ユーチューブで調べたのでイメージをもつことができましたが、具体的な教材（歌紙芝居）や、分散登校中の教室の様子をみることができるとより参考になりました。小学部でも、なかなか動画を注視できない児童がおり、動画の難しさを感じましたが、朝の会の動画では、教師の呼名には反応してモニタに関心を向けたと保護者から聞きました。この事例での注視の持続時間にかかわる要因の分析等ありましたら、教えて頂きたいです。
- ・分散登校によって学校に行かない時間ができ、子どもの学習機会の確保が早急に求められている時期だったことと思います。画面を見続けるための対応や方法を探っていくことが今後の課題としてあがっていましたが、ZOOMでリアルタイムでつながるとき、メインの教師は画面向こうの子どもにどんな声かけなどをしていたか、反応はどうだったか知りたいと思いました。やはり、学校で目の前の教師の支援があることが、子どもの反応に繋がるのでしょうか。
- ・幼稚部の貴重な発表をありがとうございました。おそらく、自身が使いこなすというよりは、保護者が中心となって使うということが求められるなど感じました。この状況下なので、これからは家庭環境でICTに関わる場所は必須だと思いました。
- ・休校時のオンライン授業だけでなく、分散登校時や一斉登校後の保護者の授業参観などもオンラインで行う取り組みは、とても興味深かった。分散登校の場合は、休みの子供は生活リズムが崩れがちだが、朝の会で一緒に参加することで、1日のスタートが共有でき、生活リズムも作りやすいのではないかと感じた。また、コロナ禍で授業参観が中止となる中、オンラインであっても、学校の様子を見る機会があることは、保護者にとっては貴重な機会であり、学校との信頼関係を築くにあたっても、とてもよい取り組みではないかと感じた。
- ・本校ではまだオンラインでの授業はあまり浸透していないが、実際に行っていくと、今までの対面授業以上に提示の仕方について考えることがあります。今回のようなオンラインでの授業を通して子どもにどのような変容が見られたかまで突き詰めた研究はまだ少ないと思うのでとても参考になりました。もう少し実際の学習活動場面の様子などを見ることができたら尚よかったと思いました。
- ・本校ではオンライン授業は導入されておらず、ほとんどの教師が「無理」と答えます。他校で様々な取り組みがされており「無理、難しい」では済まされないことを改めて感じました。オンライン等導入の取り組み実践参考にしていきたいです。
- ・コロナ禍ならではの、素晴らしいご実践でした。まとめ方も素晴らしいと思います。
幼稚部におけるオンライン授業は、認知発達的にも内容に工夫が必要であると感じた。この実践では、朝の会での取り組みであったため、比較的幼児にとって注目しやすく、活動も理解しやすい内容であり効果的であったと感じた。幼児にとってよりも、保護者にとって安心感へとつながる実践だったと感じた。
とても参考になった。
- ・幼稚部でのICTの取り組みについて、大変貴重な実践事例を聞かせていただきありがとうございました。オンラインの学習において、特別な支援が必要な子ども達にとっては、保護者の協力が必須になってしまう部分が、実施の難しさをより強く感じてしまいます。学びのあり方を広げるためにも、実践内容を今後も共有していただけるとありがたいです。
- ・非常に勉強になりました。スライド資料の印刷ができればありがたかったです。（私が発見できなかったかもしれませんが）

- ・Zoom を授業の中で活用する場面は増えてきましたが、保護者と繋がることについてはまだ一部の保護者
としか実施できていないので、参考になりました。

10. 静岡大学教育学部附属特別支援学校 齋藤先生へのご意見・ご質問

- ・特別支援学校ならではの休校中の生活リズムを整える視点で、顔を合わせたオンライン朝の会の実施の有効性が感じられました。特に、本校でも昨年の緊急事態宣言下で同様の朝の会を実施でき効果が得られましたが、保護者を介しての実施であったため、保護者が不在でも生徒が自身で操作ができ参加することができるための指導と、その背景にある家庭との連携がすばらしいと感じました。・文字だけの説明であったため、画像等を取り入れていただくとより伝わりやすかったように感じました。
- ・小学部での双方向オンライン学習の実践を知ることができ、参考になりました。子どもたちが、テレビモニタ画面に向かって話しかけたり、モニタからの発信を聴いて応じたりすることに慣れてきているので、新たな学びのスタイルに対し、可能性を感じました。実際に使用した教材や題材等を知りたいと思いました。
- ・丁寧な発表をありがとうございました。学習の保障のために、ICT 機器の活用を行うことは必須であると感じております。また、今現在もいつ学校での学習機会が急に変更及び休校等の形でなくなることもありうるので、齋藤先生がおっしゃってくださった内容に大いに同意しております。今後も、私自身も ICT 機器の応用をさらにできればと思っております。
- ・きっかけがあったからこそ、新しい取り組みが始まり、それに対して「教師の学びを止めない」という強い思いが研究を支えているのだと感じました。得手不得手があり、温度差もあり大変な取り組みだと思いますが、子供たちの学びの確保大切なことだとあらためて感じました。どの学部でどのような取り組みができるか、実態の違う子供たちに個に応じた学びを平等に確保するためには…など考えて行かなくてはならないことばかりですが、実践を参考に取組んでいければと思います。ありがとうございました。
- ・コロナ化の中での ICT を活用した、教育を中断させない取り組み、とても大切だと感じていました中、取り組みを紹介していただきましてありがとうございます。特に、出来そうで出来ない、学校と家庭をつないでのオンライン授業の実践を紹介していただきまして、ありがとうございます。
- ・これは石川先生が言われたことでしたが、オンライン授業が目的ではないというところを改めて心に言い聞かせたところです。また、今後どうなるか分かりませんし、ご指摘されていたように元気だけ何らかの理由で休まざるおえない時の対応がこれから必要だと思っています。その時に備えて、接続できるようにしていくことがこれからは教育課程に位置付けられるのではないかと思います。
- ・学部それぞれの実践内容を見ることができたことで、静岡大学の石川先生からの助言でもあったように、内容の工夫で大きく効果が変わると感じた。やってみて次に生かすことができればよいが、いつ緊急事態宣言が出され、オンライン授業を行うことになるのかなど、読めない社会の流れの中で、内容等を工夫することはとても難しいと思う。
- ・広い視点で考え、学ぶことができた。

11. 熊本大学教育学部附属特別支援学校 後藤先生へのご質問

- ・便利な教材を使っていて、ダウンロードも可能ということがわかり、よかったです。
教材の宝庫だと思いました。授業で活用したり、教材研究の参考にしたりしたいです。ありがとうございました。
- ・本校 ICT 部の研修会の際ティーチャーについて知り、関心があったものの実際にサイトを閲覧したのはこのポスター発表がきっかけでした。利用してみたいと思います。ありがとうございました。
- ・個々の特性に合わせて有用な ICT 教材を 1 から考え、作成する事は時間を有しとても大変です。先生方が作成した教材を共有できる HP があることを知り、嬉しく思いました。アイテムを共有するだけでなく、

自分が作りたい教材に近いものを作成している先生方とつながることができる場となって欲しいと思います。

- ・使用してみたい教材がたくさんありました。採用は小学校の教員なのですが、また戻った際にも広めていきたいと思いました。
 - ・パワーポイント教材を活用させていただけるサイトについては知らなかったのですが、紹介していただき嬉しかったです。ぜひ活用させていただきたいと思います。
 - ・TeachU 活用させていただいています。ありがとうございます。
 - ・非常に勉強になるサイトを教えていただき感謝しております。パワーポイント教材は効果的ですが、作成に苦慮している現場の教員が多く、在籍校に周知したいと考えます。
 - ・ありがとうございます。後藤先生の Teach U の内容の豊富さに驚きました。また、特別支援学校の授業に必要なアプリがあり、うれしかったです。授業に活用させていただきます。ありがとうございます。
 - ・こんな便利に活用できるものがあるなんて知らなかったのですが、早速使ってみたいと思いました。素敵な教材を作ってください、ありがとうございました。
 - ・様々な情報を提供していただき、ありがとうございました。先生がもたれている専門性はこれからも高められると思うのですが、その一方で、他の方を巻き込んでの平準化についてもまたご教示ください。かなり教育活動の充実が図られるのではないかと考えています。
 - ・Teach U いつも教材活用させていただいています。生徒に合わせた教材作成のハードルも下がり簡単に作ることができ助かっています！同僚にも紹介していきたいです。
 - ・精力的なご実践で、大変参考になります。学生にも紹介します。
 - ・ICT を使った教材を作成する時の手がかかりなどととても丁寧に掲載されていると感じています。様々な実践の様子などいつも参考にしています。
 - ・パワーポイントは毎授業、資料として活用しているのでとても勉強になりました。教員一人一人が ICT を使って教材作りや授業作りを行っているのですが、同じ学部でもなかなか共有したり、自作の教材に即生かしたりという時間がなく、類似した教材を互いに作ってしまうこともあります。Teach U の理念やプロジェクトそのものが教育現場においてもつ意味や価値を考えると本当に素晴らしいと思います。是非活用させていただきたいと思います。現在はパワポで iPad 上でワークシートを作り振り返りに活用しています。ひらがなを片仮名に変換する学習も従来はアナログ的に文字盤で作成していたのですが、子どもたちの実態を考えると、iPad 上での操作であれば、さらに楽しみながら行えるのではないかと感じます。アイデアをいただきながら取り組んでみたいと思います。ありがとうございました。
 - ・アプリでは、変更か聞かないため、Teach U から必要なものをダウンロードして活用することで、カスタマイズしてあったらいいなを作ることができるのでとてもよい。教材づくりにおいて、特に TU Parts は便利だと感じたが、苦手な教師にとっては、出来上がったものを活用することがほとんどで、ダウンロードしたパワポ教材をアレンジしたり、TU Parts を使って自分で・・・となるにはやはりハードルが高いのでは？とも感じた。
 - ・具体的な教材を見ることで、教材作りのヒントが得られた。学校にいても、他の先生が作ったり使用したりしている教材をあまり見れないので、ティーチユーのように公開されているパワーポイント教材はとても貴重だと感じた。
 - ・Teach U について知り、大変勉強になりました。より学んで授業にいかしていきたいと思いました。
- このようなサイトがあることを知らなかったのですが、まず、知ることが出来てとてもよかったです。パワーポイントの資料をこれだけ活用できるのか、ということと、活用の幅広さと利便性、活用のしやすさなど、本当に勉強になりました。今後の教育活動でおおいに活用していけます。ありがとうございました。

- ・時々オンラインでお話を伺ったり教材を見させていただいたりしています。オンライン上で、教材を提供してくださっているのが、とてもありがたいです。
- ・Teach U は時々、使わせていただいています。本当に便利であり、勉強にもなるので、これからも多くの先生に知ってもらいたいと思いました。
- ・以前から TeachU については関心があったのですが、今回、動画を視聴させていただいて、素晴らしい教材がたくさんあることを知りました。特に、実際の授業で、担当児童生徒の実態に合わせて編集できるところもありがたいと思いました。ぜひ、活用させていただきたいと思います。
- ・興味深い教材がたくさんあり、活用してみたいと思いました。とても得をした気分です。

12. その他

- これまでの準備が大変だったことは、研究内容や実践内容からも伺えました。お疲れ様でした。本校でも参考にさせていただきます。
- 大変参考になりました。次年度の研究も楽しみにしております。
- 本校も大学の附属ですので、今後ともよろしく願います。
- 先生方、感染拡大の大変な中での公開研究会の運営、お疲れさまでした。
- 自分の都合の良いときに自宅で視聴できるし、気になるところを繰り返し確認できるのがいいと思います。
- このような機会を与您いただきありがとうございました。山梨はなかなか行くことができない場所なのですが、このような機会があることで実践に触れることができます。これからは、直接参加もあり、加えてこのような形の2本立てになるとよいと感じています（準備は大変ですが）。このメリットは一人でも多くの意見（他県からも）がもらえることと発信していただくことにより、それぞれの実践が充実してくることだと思っています。その視点で上記のアンケートについて特にはないのですが、1年目の研究と伺ったので、次年度につながることであればアンケートに入れてもよいのかなと思いました。全く違いますが、例えば、情報モラルはどこの教科等で指導していますかとか内容はとか貴校にとって発信されるだけでなく、情報を得ることも仕組みとしていれるとよいのかなと少し思いました。今カリキュラムマネジメントから多くの学校が年間指導計画を整理していますが、今後、ICTの活用によって情報モラルを含め、教育課程が少し整理されるのではないかと考えています。また、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善においてもICTの活用があると考えた時に、少し教科等の中での活用があるとさらに議論が深まるのではないかと感じています。様々な準備やメール送付等に感謝いたします。
- お世話になります。研究会の開催まで、きめ細やかなメールでの連絡等ありがとうございました。感謝していますし、お礼申し上げます。研究会のコンテンツすべてを視聴しましたが、私の時間の関係上、全部に回答できなくて申し訳ありませんが、貴校の研究のすべてのコンテンツは大変参考になりました。ありがとうございました。貴校の益々のご発展をご祈念しております。ありがとうございました。
- 講師の先生の動画もとても参考になりました。ありがとうございました。
- 学生という立場でこのような現場の実践を拝見できる機会をいただき、大変ありがたく思います。また、実習を経験させていただいた身としては、担当していた子どもたちの成長を見る機会となりとても嬉しい気持ちです。実習で学んだことと今回、動画を見て学んだことを4月から実際に現場で生かしていきたいと思っています。ありがとうございました。
- 公開研究会の運営に関わった皆様、とても素晴らしい内容でした。色々と今後の実践に参考にしたいと思っています。お疲れ様でした。
- 視聴させていただき、ありがとうございました。ICTを子ども達が積極的に活用し、活用することにより主体的に活動している姿が、とても印象的でした。日々の実践で参考にさせていただきたいと思います。

●ICT をテーマに研究されるのであれば、実際に休校になった場合にどのように使用するのが教育的に成果があるのか、コロナ渦でどのような活用が「効果的な活用」なのか、実際に朝の会や健康観察での使用ではなくて学力を向上させる内容（教科）での ICT 活用について研究してほしいなあと思います。（保護者や社会的なニーズもそこだと思います。）また、助言でもありましたが、集団としてどう使うかというこの研究もしてほしいです。

○研究部の先生方には大変なご苦勞をおかけしました。本当にありがとうございました。学校研究、学部研究での学びを今後の授業に生かしていきたいと思います。

○研究に携わった先生方の熱い気持ちを感じられ、本当に感謝の気持ちしかありません。このように素敵な学びの場を与えてくださり、ありがとうございました。

○障教の先生方が身近にいて支えてくれる環境は、国内でもまれな学校だと思います。改めてありがたい存在だと思います。これからも仲良くしてほしいと思います。 ・附属の先生方、公開研究会があることで、学校研究のハードルは高くなり、精神的にも作業量としても負担が大きいですよね。しかし、動画に出てくる先生方の表情や動き、話し方、言葉のチョイスから、皆さんが確実に成長していることを実感しました。 ・附属特別支援学校の実践は、県立の特別支援学校で有効に活用されています。これからも外から応援させていただきます。本当にお疲れさまでした。そして、ありがとうございました。 中込昭彦

○この研究を今後の教育活動に活用させていただきます。ありがとうございました。

○素晴らしい研究成果を提供いただきありがとうございました。

○大変勉強になりました。GIGA 構想元年でもあり、中学校現場でも特別支援教育に限らず参考にできる内容でした。特に ICT 活用の意味や意義について再度考えさせられるご提案でした。ポスター発表も素晴らしく、多くの学校で共有できるとよいと感じました。ありがとうございました。

○動画だと、聞き逃したところを繰り返して見ることができて、ありがたかったです。なかなか集まることができない中、このように研究会を開いてくださったことで、勉強する機会ができました。ありがとうございました。

○大変勉強になりました。ありがとうございました。

○貴重な情報の提供ありがとうございました。ご準備のご苦勞お察し申し上げます。今後もよろしくお願いいたします。

○中学校の教育現場でも、ICT の活用は喫緊の課題です。しかし、今回研究会に参加させていただく中で、機械を使えるというところをスタートラインとして教材研究をしていたことに気づきました。見えにくさや操作のしにくさ、環境の配慮といったアクセシビリティの視点を提示していただいたので、今後はそこも含めた教材研究を心がけていきたいと思います。貴重な実践および研究紀要の提案ありがとうございました。

○オンデマンド配信は、遠隔地にいる者にとって、山梨大学附属特別支援学校の研究成果を学ぶことのできるよい機会です。ぜひ次年度も継続していただければと思います。次回の研究報告を期待しています。

○とても役立つ研究や研修の機会をありがとうございました。

○毎回参加をしています。学びの多い公開研究会に感謝致します。ICT 機器を教育場面で使用することに慣れていないため、大変勉強になりました。ICT 機器とこれまでの指導の融合も興味深く拝見しました。ありがとうございました。

○ありがとうございました。